

大学キャンパスを活用した 環境教育プログラムの作成・実践・評価

12108011 磯辺涼平 12108136 矢澤良輔 14408702 市原聡

背景

環境問題に関して解決する課題は、多くの要素が絡み合っているとともに我々の日常生活に大きく関わっている。



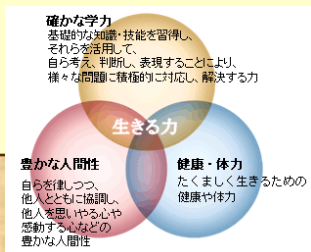
一人一人が環境に負荷の少ない生活に努め、環境や環境問題を総合的に捉えて解決の方策をとることだと考えられる。

目的

環境教育活動を通して児童の主体性、道徳性など「生きる力」を育む。

※生きる力・・・知・徳・体のバランスのとれた力

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てることが重要。



方法

作成

- 既存の環境教育活動を参考に、新たな環境教育プログラムの計画、作成。
- プログラムを行う前後へのアンケートを作成。

実践

- 大学キャンパス近隣の小学生を対象に作成したプログラムを年間を通して実践。

評価

- 環境に対しての意識の変化を調査し、まとめる。

稲作体験

目的：身近な環境とのかかわりに気づき、伝統や文化の地域の資源を保護、活用する。

対象：亀井野小学校の5年生

活動地：CNESの棚田

内容：棚田という機材が入りにくい環境で、日本古来の伝統な手法で一から稲作体験を実施する。

田植え→手植えで行う。

観察会→成長した稲の成長の観察

稲刈り→稲を自らの手で刈る。

収穫祭→自ら収穫した米を食べる。

谷戸探検

目的：自然と触れあい、大切さを学ぶ。

対象：天神小学校の1, 2年生

活動地：日大谷戸

内容：日大谷戸を探検し、夏秋冬の計3回を実施する。2年生では、地図をもとにゴールを目指す。1年生では、谷戸内のゴミを拾いながら探検する。また、双方共にネイチャーゲームを実践する。



年間予定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稲作体験		田植え		観察会		稲刈り			収穫祭			
谷戸探検			夏探検				秋探検		小物作り	冬探検		